英国における Dance Syllabus とダンス学習内容の検討

川　口　千　代

An Examination on Dance Syllabus and the Contents of Dance Education in England

Chiyo KAWAGUCHI

The purpose of this study was to eshablish the direction our dance education by comparing dance syllabus and contents of dance education in various countries as well as by understanding their differences and similarities.

In this study, the author examined the dance education at both primary and secondary schools in England. It is strongly affected by R.Laban commonly, and the contents which are suited for each stage and level are presented here. It is persistenly led by the "principle of movement" based upon What, How and Where. So-called "education synthesized by independent creativity and physical training, and social behavior and physical training", which emphasizes the Relationship (an individual and company), seems to pursue a lively and rich human education by dance.

1. 緒　言

舞踊教育は，現在，日本はもとより，米国・英国をはじめ，世界各国で教育として位置づけられ，それぞれの独自性をもちつつ，舞踊の教育・舞踊による教育の両側面からのアプローチがなされているといえよう。

本研究は，Educational Dance 即ち，教育舞踊もしくは教育的舞踊として，幼児から大学に至る学校教育の場で独自の歩みを進めているといわれる英国の舞踊教育をとりあげ，Dance Syllabus とその学習内容を中心に検討し，英国における舞踊教育の目指す方向を確めようとするものである。

英国の舞踊教育については，これまでに，いくつかの紹介もしくは報告[2),6),7),10)]がなされているが，いわゆる Dance Syllabus としての具体的なダンス学習指導要領の内容の検討に関しては，未だ論ぜられていない。英国の教育舞踊の特徴として次の点があげられる。① "教育的" とは学校・大学などで行われるダンスを指し，Professional な dancer の養成とははっきり区別されており，dance for all の精神で「[7)]あらゆる人が，年令・才能にかゝわりなくダンスの喜びを会得できるように，その運動経験を豊かにすることにある。」② 「動きの原理[6)]」を生徒や学生に気付かせ，理解させ，個々の考えで動きの経験を豊かにさせることにより，自主・創造・自律性を尊重する英国の教育の中で，他教科とも関連をもちながら，教育の目的達成の一助をになっていると考えられている。いわゆる，「R.Laban の運動要因[10)]の分析と体系論と実践が背景となって，教育として普遍化した」といわれる。本研究は，これらの特徴をふまえ，Dance Syllabus の検討をすすめるものである。

2. 方　法

本研究では，英国の発達段階別の「Dance Syllabus」と「実践指導された（筆者が受講）学習内容」をとりあげ，いわゆる指導要領として掲げられている内容と，具体的な実践との関連をも検討する。

（主要検討資料）

○ Pilot Study of Dance Syllabus for Infant —1975—(Laban Center for Movement and Dance)

○ Primary School Dance Syllabus —1979—(Laban Center for Movement and Dance)

○ Dance Department Syllabus —1974— (The Waverley School)

○ Modern Educational Dance C.S.E. Mode III —1975—(Cardinal Newman High School for Girls)

○ G. C. E.'0'Level Dance Mode 2, The Syllabus Content —1980—(ILEA/ILDTA G. C. E. '0' Level Conference, Joan W.White-)

上記，英国の Dance Syllabus の検討資料を選定した理由としては，今日なお R.Laban の精神にたって英国はもとよりヨーロッパにおける代表的な運動や教育的舞踊の研究機関である Laban Center for Movement and Dance より出されている資料，また，一般公立学校で Manchester(R. Laban が最初に学校を開いた土地）にあって Laban の影響が強いとみられる Cardinal Newman High School と，同じく公立校でロンドンにある Waverley School の資料，そして，ロンドン教育当局舞踊教師協会（ILEA/ILDTA）より出されている資料と，考案・発行されている機関が偏らないことを条件とした。

○「実践指導資料」（川口，受講記録より）
Dance in Education —1977—
at Loughborough College of Education
（現，Loughborough University of Technology）

「資料 1.」　　英国の学校種別と就学年限

公立学校（State）			
2～5（年）	保育学校（Nursery School）		
5～7 7～11	幼児学校（Infant S.） 少年学校（Junior S.）	} 小学校（Primary S.）	
11～ ～18	モダン・スクール， （Modern S.） 中学校	グラマー・スクール， （Grammer S.） （Secondary S.）	総合学校 （Comprehensive S.）

私立学校（Independent）		
2～5（年）	保育学校（Nursery School）	
5～8 8～13	前予備学校（Pre-preparatory） 予備学校（Preparatory）	
13～18	パブリック・スクール， （Public School）	助成校 （準私立学校）

・義務教育：5才～16才
・国家検定試験
1）中等教育証書（C.S.E.）
2）一般教育証書（G.C.E.）— O レベル（普通級）
　　— A レベル（上　級）

「資料 2.」

英国の学校体育指導要領

(Syllabus of Physical Training for School)

1904年　制　定：文教院（Board of Ministry）による

1909年　改　定：イギリス学校体育の基礎を確立

「スウェーデンの教育体操」を取り入れる。

1919年　改　定：体操の形式的性質を改善し，ゲームやダンスを含む活発で自由な動きを入れる（楽しさ，気晴らし）

1933年　大改定：英国文部省制定の最後の指導要領

重　点
- 「よい姿勢」や活発な運動による敏しょう性や柔軟性の養成
- 動きにおけるリズムの必要性を考慮すること。
- 形式体操からくる硬直さ不自然さの除去。
- 栄養・衛生・環境の重視

1944年　教育改革，バトラー法成立

（Batler 文部大臣のもとに成立した教育法）

バトラー法
- 「すべてのものに中等教育を」がねらい。
- 義務教育を11年制に
- 教育の権限と義務 → 地方教育当局に与える。

（指導要領作成の権限）

→ 文部省は指導要領を作成できなくなる。（勧告機関）

⇩

指導の参考書を出すにとどまっている。

1952，1953年：文部省指導書刊行

①「運動と成長」　1952年

(Moving and Growing)

②「計画の作成」　1953年

(Planning and Program)

3．考　察

(1). 英国の教育と学習指導要領

先ず，簡単に英国の教育について述べたい。英国では，早くから(1870年)義務教育が開始され，現在では5才～16才までの年限が義務づけられている。学校種別と就学年限については，「資料1」にある如く，初等教育（小学校）と中等教育（中学校）に分かれ，更に，その上に継続教育，高等教育がおかれている。

次に学習指導要領についてであるが，「資料2」にみる如く，当初はBoard of Ministryを設置し，国家[11]みずからの手で国民の教育を行っていたが，1944年のバトラー法成立以来，教育の権限と義務は文部省から地方教育当局にゆだねられ，文部省は勧告機関としてのみ機能することになった。したがって，学習指導要領の作成権は，地方教育当局に移り，指導要領は国家基準という強い性格は持たず，採用する学校の教育方針や実情とを勘案して校長の権限により自由裁量できるしくみになっている。しかし，文部省は参考としての指導書を刊行しており，その中で，ダンスに関する内容も提示されている。(資料3」参照)。具体的内容の例示としては，A，動きの質的対置，B，空間の探求があげられている。これらの方針にもとずき，Dance Syllabusに関しても，地域の舞踊教員団体や教科担当団体が設定したものが採用されている。

(2). 小学校段階（Primary School）の Dance Syllabus

小学校前期といわれるInfant Schoolについて。Infant SchoolにおけるMovementは，2つのタイプ即ち，①明確な目的をもった機能的動き，②創造的に用いられる表現的動きとに分けられ，子どもにはこの両タイプの動きを経験する機会が与えられるべきであるとしている。また，幼児は，①動きの楽しみ，即ち，運動による全身的覚せい（total stir）を楽しみ，②言語的刺激や声，音の変化に敏感に反応し，③身体で何ができるかを探求・発見することを楽しむとし，これらの発達特性をふまえて内容が提示されている。即ち，What move，How it move，Where it moveを学ぶ中で，子ども達は動きの連続を組立て，自己の創意・工夫で短時間ながら踊ることができる段階であるとして次の様な内容を提示している。

- Body Awareness(全身の使い方，部分の探求)
- Speed（速い・遅い，漸次的変化）
- Weight（強い・軽い，ステップや拍手による loud・soft）
- Space（近い・遠い，移動動作の変化―直・曲など）
- General Space（前・後，横，高・低・中など）
- Relationship（全体の中の個人として，教師と共に，教師の後について，2人でいっしょに，など）

これらは，先にあげた文部省指導書にみるA.動きの質的対置，B.空間の探求に重点をおいた内容とみられる。

Infant Schoolの次の段階のJunior Schoolでは，更に，○effort action，○ダンスの構成とクライマックスの発展，○シメトリーとア・シメトリー，○より長いフレーズのための最大限の音楽の利用，○劇的強調を伴う動作，○6～7人のグループ・ワークなどが加わっている。小学校段階における，発達段階をとらえた，発展的学習内容の設定がなされているとみられる。Primaryの段階では，検討した2つのSyllabusとも殆んど類似した内容が設定されている。

(3). Secondary School の Dance Syllabus

中学校期最初の3年間は，創造的舞踊の一般的教育として考えられ，①動きそれ自身の表現的可能性を感知する，②生徒の青春の日々，世界や芸術に関する意見など，生活のいろいろなmoodや局面を客観化する動きの力（Power）を感知し，判断する。③舞踊の芸術形式における表現的動きの可能性を発展させることを感知するなどのねらいをあげ，次の様な内容が提示されている。

- What the body can do（動と静，部分の認識）
- Where the body move（動きのレベル，大きさ，方向など）
- How the body can move（移動，静止，Jump，Turn，Stepなど）
- Accompaniment―伴奏（音の質，音楽のfeelingと動きの関係など）
- Relationship（2人，3人，4人，大人数）
- Dance Composition（劇的な事件や，単純な詩

「資料 3.」　英国の文部省指導書にみるダンス内容（小学校）

1）「運動と成長」編（Moving and Growing）

第4章　体育の諸領域

ゲーム，水泳，芸術としての動き，ダンス，演劇的動き，身体鍛練

2）「計画の作成」編（Planning and Program）

第4章　ダンス

（動きと音楽，ナショナル・ダンス，唱歌げーム）

・ダンスは元来，女々しいものではなく，元気と敏しょうさを必要とするものである。子どもは色や形や構造で探求するように「動き」において探求する。動くことそれ自体をよろこぶ。

〈ダンス・プログラム〉の例示

A．動きの質的対置（対比）

(a)　音楽に合わせて自由に動く。

(b)　動きの質的対置として，〈遅い―速い〉，〈重い―軽い〉動きを試みる。
こどもは動くことによって，からだのあらゆる部分でそれらの動きの質的な違いに気づく。

(c)　これらの質的な動きを音楽の短い分節にあわせて即興的に動く

B．空間の探求

(a)　音楽にあわせて自由に，漸増的・漸減的動き，低い・高い動きをする。

(b)　前・後，側方から側方へ，方向の異なった動きを試みる。
遅・速の質の異った動きを結合する。

(c)　いろいろな方向，上・下，前・後への動き。直線的 → 迂回的動き

(d)　詩句や refrain（はやし歌）の形をともなった音楽にあわせて動く。4/4 拍子の動き，6/8 拍子のスキップなど。

「資料 4 — 1」　「Dance in Education」におけるダンス学習内容

指　導：B. A. Lipscomb, R. E. Jones.
at Loughborough College of Education, 1977（受講記録：川口）
（現．Loughborough Univ. of Technology）

〈小学校段階における実践例〉

1. Dance for younger children (Infant Dance. 5 ～ 6 才)

1) walk round : same — different,
rough — funny

2) stalk
fold my leader
escape
bionic

3) sit up — down, top — bottom
some where — no where

4) 4 人 group による「Sun（太陽）」の表現
sun — 1 人
sun beams — 3 人

2. Primary school dance（7 ～ 9 才）

1) Weight　: strong — light

2) Shape　: sharp, angular

3) swaying, rocking, rolling
spinning, sliding

4) 一連の動き
strong・sudden — flexible — together — strong・direct

・与えられた動きを個人が練習
・上記の動きを連続して反復
・4 人組で合せて

} refrain の音楽の感じをとらえて，一連の動きの流れにする。

5) 音楽から感じる運動の要素を強調して動く

① クラシック音楽
（例）strong, light, flexibility or swaying

② カウボーイ・ソング（ウエスタン調）
（例）flexibility and fast
(slow down)

「資料 4 — 2」

3. Primary school dance（9～11才）

1) スポーツの中から動きをみつけ，リズミカルに表現

（例）サッカーの動きの表現

2) Primary production

"evil and good"

（不幸）（幸福）

3) ダンス創作（動きの表現）で留意すべき条件

Shape —extend, enlarge

contrast, elaborate.

Tempo slow / fast

Situation imitation

stillness

contrast

4) 神（The Lord）の表現

① Lord of Heaven and Earth.

born, live, die

(high-low, up-down, elevation)

② Lord of Happiness and Joy.

consideration for other

(partnership, togetherness, travelling, light)

③ Lord of Unity and Peace.

understanding

(closeness, fitting together, rotation, symmetry)

④ Lord of Excitement and Frivolity

positive, unstable, bubbing, tlembling

(leaping, expanding, diagonal)

⑤ Lord of Humility

(retreating, sinking, supporting)

⑥ Lord of Magnificence

grandness, ritual

(look at me = display, stable)

を刺激として，教師の指導により，短かいソロ・ダンスや，やゝ長いグループ・ダンスをつくる，など）

中学校4，5年次になると，更に，内容が細分化し，大きく，「動きのトレーニング」と「Dance Composition」に分けられ，動きのトレーニングでは，R.Labanの「動きのeffort element」の感知の必要性が強調され，Dance Compositionでは，他の芸術分野（音楽，ことば，詩，彫刻，絵画，写真等）との関係をとらえさせ，照明，衣裳，録音など上演法との関連，更に，ダンス評価・即興の評価の規準（観点）まで示されている。内容は次の通りである。

Movement Training
- Boby：The use of the body
  - Body activities
  - Body shape
- Space：Use of general space,
  - Floor patterns,
  - The kinesphere,
  - Pathways in gesture,
  - Use of levels,
  - Spatial relationship in Composition,
  - Diagonal orientation,
- Effort：Weight
  - Space
  - Time
  - Flow
  - Combination of effort elements
  - Effort actions
  - Use of dynamics
  - Impactive, Impulsive
- Relationship：solo, duo, trio, four, more persons,
  - leading, following, question and answer,
  - conflict, moving in opposition

Dance Composition

4．まとめ

以上，英国における小学校（初等教育）段階，中学校（中等教育）段階のDance Syllabusを検討した結果，英国の舞踊教育では，いずれの発達段階においても，一貫して，What(身体は何ができるか—全身が，部分が)，How(どのように動くか—空間，時間，力性，流れ)，Where(どこへ—方向，高・低など）を根底に動きの原理から導き，また，Relationship(個と仲間の関係)を強調した，いわゆる「自主創造の活動と身体訓練，社会的行動と身体訓練の総合された教育形態」をとり，発達段階に則した内容の発展がみられ，舞踊による豊かな人間教育を指向していると思われる。

尚，これらのDance Syllabusと，筆者自ら参加しえた「Dance in Education」における実践内容とを検討した結果（「資料．4」参照），かなりの共通性が確認された。

例えば，資料4の1．Infant Danceの内容の1）walk roundは，全身を大きく使ったBody Awareness，2）のstalk以下4つの動きはSpeedの変化を，3）のsit—up以下の3つの動きの質的対置はSpaceの変化をという如く，先に述べたWhat，How，Whereの原理がふまえられ，更に，4）の「太陽」の表現では，Relationshipに視点を置いた表現的動きの指導といえる。

これらの結果から，英国における舞踊教育は，異った地域のDance Syllabusと実践指導の学習内容の検討においても，What，How，Where，Relationshipの原理がふまえられていることが認められた。

今後更に，我が国の舞踊教育との比較に視点をあて，検討を進めたい。

（参　考　文　献）

1) Cardinal Newman High School for Girls：Modern Educational Dance C.S.E. MODE III, 1975
2) 堀野三郎：イギリスにおけるダンス教育，女子体育，第17巻，第2号
3) ILEA/ILDTA G. C. E '0' Level Conference, Joan W. White：G. C. E. '0' Level Dance Mode 2 The Syllabus Content,1980
4) John E. Kane：Curricum Development in Physical Education, Crosby Lockwood Staples, 1976
5) ジョン・ケーン編著，村山輝志他訳，学校体育カリキュラムの発展，不昧堂出版，1982
6) 木村　光：イギリスの舞踊教育，女子体育，第16巻，第1号
7) Lorna Wilson：Educational Dance, Proceedings of Sixth International Congress, IAPES-

SGW, 1969
8) Marion North : An Introduction to Movement Study and Teaching, Macdonald & Evans, 1971
9) Marion North, David Mickittrick : A suggested Scheme of Movement and Sound for the Junior School, 1971
10) 松本千代栄：舞踊教育の比較研究，女子体育，第19巻，第3号
11) 文部省：外国における体育・スポーツの現状, 1968
12) 森島通夫：イギリスと日本—その教育と経済—岩波新書，1981
13) Rudolf Laban : Modern Educational Dance, Macdonald & Evance, 1963
14) Laban Center for Movement and Dance : Pilot Study of Dance Syllabus for Infant, 1975
15) Laban Center for Movement and Dance : Primary School Dance Syllabus, —— Roughly in order of suitability for different age groups —— 1979
16) The Waverley School : Dance Department Syllabus, 1974
17) Valerie Preston : A Handbook for Modern Educational Dance, Macdonald & Evance, 1963
18) Valerie Preston-Dunlop : A Handbook for Dance in Education, 1980
19) V.プレストン著，松本千代栄訳：モダンダンスのシステム，大修館書店，1976